

みんなで町を守るシンボル

つくばの火の見やぐら

つくば市立谷田部小学校 3年 横内新

目てき

火の見やぐらは、れんらく手だんが発つていかなかった時代に火事の発生をいち早くはあくし、カネ（はんしょう）をたいて住みんや近くの集落に知らせるためにつくられました。しかし、さい近は新しくつくられることは少なく、古いものはこわされてしまい、町で見かけることがあまりありません。そこで、はくが住むつくば市に火の見やぐらがどのくらいあり、それがどのようなかたちをしているのかを調べました。

調査日と調査方法

調査日：8月11日、8月14日、8月18日（3日間）
調査方法：市内にある全部の消ぼうだんの小屋をまわり、そのしゅうへんや道の中にある火の見やぐら（人が上ることができると）を調べた。また、つくば市のホームページにある消ぼうだんの写真をかくにんして、今はなくなってしまった火の見やぐらの場所も調べた。

調査きっかけ

- 全部で62基の火の見やぐらをかくにんできた。その内、昔ながらのやぐらのかたちをしたものが37基あった。
- 火の見やぐらは、鉄せいのもが多く、4本の足でタワーのかたちをしたものが31基で一番多かった。
- つくばエキスポプレスの駅や新しい住たくがいまわりには少なく、古いたて物が見られる地いきや神社のけい内に多くあった。
- 市内の南部にくらべて、北部の方が多かった。南部では、さい近にこわされたものが多くあった。

感想

新しいたて物は火の見やぐらよりも高さが高いものも多いことや、れんらく手だんが発つたことがあり、火の見やぐらは少なくなっていることがわかりました。だけど、火事を早く発見してみんなに知らせなければならぬのは今も同じなので、「みんなで町を守るシンボル」として、これからも地いきを見守りつづけてほしいと思いました。

記号の見方

- (白) : カネが付いているやぐら
- (赤) : サイレンが付いているやぐら
- (黒) : どちらも付いていないやぐら
- (黄) : 鉄せい
- (青) : コンクリートせい
- (黒) : そのほか
- (黄) : 4本の足でタワーのかたち
- ▲ (黄) : 3本の足でタワーのかたち
- (白) : 3本の丸い柱で立つ
- (黒) : 2本の丸い柱で立つ
- (赤) : 昔ながらのかたちをしているもの
- (黒) : 今はないけど最近まであったと思う場所